

品川用水

品川用水は、江戸時代より玉川上水をその元として、わずかな高低差のみを頼りに、武蔵野からはるばる品川までやってきた農業用水です。

玉川上水に 33 あった分水のうち**最長級**であり、その**流長**は約 30 k m ・ 7 里半で、武蔵小山の地蔵の辻（現在の後地交差点）から分岐を繰り返し、多くの田畑を潤していました。しかし、市街化のうねりの中でその役目を終え、埋め立てられたり、暗渠（ふたがしてあったりする通水路や排水溝）になるなどして昭和 20 年代に姿を消しました。

そして品川上水は、桐ヶ谷方面と平塚橋方面の二手に別れます。北側の桐ヶ谷方面の流れは、尾根の上を走る百反通りに入り、高度を維持して進みました。しかし、大崎駅付近まで来ると、百反通りから左折、小さな神社を見ながら右折して、崖地を一気に下って行ったようです。地図を見ると下った先には、半円形が特徴の水車の記号があります。（品川観光協会・フォトグラファー渡辺茂樹氏より）

